

東久留米市立大門中学校 第3学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	どうすれば主体的な学びになるのかが理解できていないとともに、自分の行動を具体的に振り返ることが苦手である。	自分の考えがどのように変わったのかを書く、まとめ作文を行い、自分の知識の変化を具体的に書く力の定着を図る。また、視覚的に達成度が分かる工夫もしてまとめ作文につなげたい。	・国語科通信などを通して粘り強い取り組み方や学習の調整の仕方の良い例を紹介して、主体的に取り組む方法を教えていく。全ての観点のC評価の人数を学年で1桁にする。
社会	資料を活用して答えたり、資料と基礎的知識を結び付けて答えを導き出したりする問題に慣れていない。	ICT機器（モニター・実物投影機・DVD）を使用することで、視覚で確認し理解させるようにする。授業中にスモールステップで簡単な問いを解くことで自信を付けさせる。	・1学期期末考査の資料活用に関する問題の正答率が20%程なので、正答率30～40%を目標とする。
数学	1・2年生の内容に不十分な点がある。計算力は一定以上ある。検算や検証が不十分だと分析している。	以後の小テスト・定期テストでは毎回1・2年の問題も出題して、主体的に学んだ内容を正しく表現できる「技能」の定着を図る。	・以後の小テスト・定期テストでは毎回1・2年の問題を全体の10%以上出題する。その問題の正答率を70%以上にする。
理科	実験の結果や起きた事象の根拠について表現する（記述）することが苦手な生徒がいる。実験・観察結果から科学的根拠に基づいて考察を記入できるようにする。	ペア活動や班活動の時間を設け、他者の意見を参考にしながら自分の考えをまとめる時間をつくる。基本的な知識を定着させ、知識を基に考えられる力を付ける。	・実験レポートで、考察欄を設けB評価（科学的根拠に基づいて説明する）を50%以上にする。
音楽	表現意欲はあるが、技能が追い付いていない生徒がいる。	身近なところから興味を引き出し、音楽の仕組みや理解を深め、自ら表現を工夫できるような学習活動を展開する。	・箏の実技で意欲的に演奏したと自己評価した生徒が80%を超えるよう指導する。
美術	見る力、感じる力、それを表現する力を更に伸ばす必要がある。	手作り絵本製作で計画性と丁寧さを養い、鑑賞レポートで表現の奥深さを知り、堆朱工芸で工芸作品の美しさを学ばせる。	・作品を提出させる。主体的に学習に取り組む態度の評価が以前より上がる生徒を5%以上増やす。
保健体育	（男子）単元によって取り組み意欲・姿勢が異なるので、運動の内容とその運動が体力にもたらす効果を考える時間を取り入れる。 （女子）楽しく活動はしているが、仲間と協力して自己やチームの課題を解決しようという積極性が乏しい。	ペアを組んで、考えながら運動の習熟に必要な思考と実践をまとめながら進め、評定に反映することを周知させる。 ペアやグループ活動では話合いの時間を設け、仲間からのアドバイスやチームの課題を学習カードに記入しながら、次回の目標を設定させる。	・授業評価内で、「関心・意欲・態度と思考が大切な事」と答える生徒が90%以上になる。 ・仲間との話合いの結果、課題をどれだけ克服できたかの自己評価のA評価が70%以上になる。
技術	技術科で学んだ知識・技能の生かし方をどう発展させるかの意欲が必要である。	家庭生活や社会で生かせる知識・技能をテーマごとに再認識させ、自らの生き方に展望をもたせる授業内容とする。	・生きて働く知識・技能の習得に重点を置き、作業パフォーマンス・ワークシートによる点検で、A評価の生徒が80%以上になることを目指す。

東久留米市立大門中学校 第3学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
家庭	子供の成長を支えるのは家族、地域や社会の役割が大きい。少子化であり乳幼児と関わる機会が少ない。知識は習得しても理解が十分ではない。	社会で起きている家族の問題について、対話を通じた学習の中で問題解決に向けて考える機会をつくる。	・ 共存社会に向かっていくことの重要性を捉え、自ら考えることができ、レポートでB評価の生徒が60%以上になることを目指す。
外国語	与えられた課題をこなすことができる生徒は多いが、自ら課題を捉え、やるべきことを判断し、やり遂げるといった、「自主的に学ぶこと」が苦手な生徒が多い。	単元のゴールを明確に示し、毎授業で振り返りを行う中で、自らの課題を捉えさせ、家庭学習を行わせる。また、毎授業家庭学習の内容をチェックし、自主学習の定着を図る。	・ 全生徒が「昨年度よりも自主学習ができるようになった」と回答することを目指す。（毎単元後及び学期ごとにアンケートを行う。）
科特別の徳教	自分の意見を意欲的に発表する生徒とそうでない生徒がいる。	ペアやグループで意見の交換をさせ、多様なもの見方や考え方があることを分からせる。	・ 友達の見聞き、自分の考えを深めることができたか。（授業観察、ワークシートからの見取り）
習総合的時間	社会で必要となるコミュニケーション能力・人間関係形成能力の育成と自己認知力の向上が必要である。	進路学習を通して、自己について深く考え、振り返り、分析する機会を設ける。また、hyper-QUの結果をフィードバックした生徒の対応を実践する。	・ 年間を通して、特に進路決定の際に自己を振り返ることで、自分のことについて考えたり述べたりする練習の機会を設ける。